

IMAGE ARTS AND SCIENCES

日本映像学会報 No. 153, 2011

VIEW 展望

私と映画と詩／杉山平一…2

INFORMATION 学会組織活動報告

映像表現研究会…3 支部・研究会だより 関西支部…6 西部支部…7

会員研究テーマ…8-20

REPORT 報告

東部支部第1回講演会「アニメーションと日本文化」高畑勲氏／横田正夫…4

映像教育研究会「つくちゅうシネマワークショップ作品上映会」／為ヶ谷秀一…5

東部支部第27回映画文献資料研究会「映画の中の子供たち—羽仁進、大島渚、F・トリュフォーの場合」Arta TABAKA 氏／田島良一…6

FROM THE EDITORS

編集後記…20

「Image Arts and Sciences / 日本映像学会報第153号」2011年1月1日発行

発行人：豊原正智 編集担当／総務委員会：岡島尚志(委員長)・古賀太(副委員長)・岩本憲児・応雄・橋本英治・山田幸平・和田伸一郎・奥野邦利

日本映像学会事務局：176-8525 練馬区旭丘2-42-1 日本大学芸術学部映画学科内
phone：03-5995-8287 / fax：03-5995-8209 / e-mail：JASIAS@nihon-u.ac.jp

<http://jasias.jp/>



日本映像学会

私と映画と詩

杉山 平一

昭和初年のころの旧制高等学校の入学試験問題は共通だったが、学校毎に科目に変化があり、私は、苦手の数学の無い学校を探したところ、島根県松江高校があった。数学が除かれたのを知ってか、全国から、台湾や朝鮮からも受験者が殺到し、競争が激烈になってしまった。幸い、私は滑り込む事ができ、入ってみると、しっかりした秀才が多く、数学嫌いのませた文学青年が多かった。すでに、東京詩壇に新進として知られた布野謙爾や空谷舜造がいたが、難しい大人のような言葉遣いの詩には近付けなかった。

故郷の団らんを離れての寄宿舎の寂しさを紛らわすために、街に出ては、映画館で映画を見た。僅かにチャップリンなどを父兄同伴で見ていた者にとって、初めて見る大人の映画であった。

ところで、学校の校友会雑誌を見ると、ロシアのブドフキン、エイゼンシュタインの理論の紹介、映像理論があり、文学にはエスプリヌーボーの世界が流れてきていた。政治的にはマルクス主義の流れがあり、図書館では、〇〇××の伏せ字だらけの本があった(改造、中央公論など)。思想善導の役目の高田保馬や柳田国男等の講演があり、入学早々、上級生が退学処分を受け、その処分に反対する一ヶ月に及ぶストライキに巻き込まれたりした。世界をおおった大恐慌の波がようやく収まりはじめ、満州事変をきっかけに景気が回復しつつあった。松江出身の兵隊に初めて戦死者がでて、遺骨を迎える出来事があり、戦時体制は進みつつあった。

一方、わたしは映画館通いを続けていたが、当時印象深かったのは、小津安二郎の『東京の合唱』だった。会社勤めと思っていた主人が、ある日、子どもと電車に乗っていてふと窓の外を見ると、主人に似た男が何か広告の旗を担いで歩いているのが見えた。その夜、子どもが急病で入院することになり、父は下の子どもを背負って外にでると、夜空に花火が上がって、ふと消えた。下詰めのサラリーマンの哀愁が心に沁みそうだった。

映画専門のキネマ旬報をとって、映画モニタージュ論を書くのに、あの夜空の花火のモニタージュの事を書いた。日曜日、松江の街には兵隊があふれていた。兵隊が前から来る上官に挙手の礼をした。とたんに、何か催しの花火がどーんと上がった。すると、上官が、軽く答礼した。それが花火の映画シーンに重なった。また、京都の知恩院へ行った時、案内役の若い坊主が客に「廊下は一」と言うと、障子の向こうから「ポクポクポク」と木魚の音が聞こえて、坊主の「ぜんぶー」の声と、「ポクポクポク」「うくいすばりー」その面白さがモニタージュと気が付いた。それから、映画のモニタージュとは詩のモニタージュと似ている事に気が付いた。

その頃、フランスのエスプリヌーボー、ノイエザツハリツヒカイトなど、新しい芸術新思潮を春山行夫が編集、「詩と詩論」という季刊誌に、パブロ・ピカソやフランク・ロイド・ライト、シュールレアリズム、詩などと並んで映画も紹介されていた。

その中に津村信夫の「小扇」という詩があった。

指呼すれば 国境は白い一筋の流れ

高原を走る夏期電車の窓で

あなたは 小さな扇子をひらいた。

という詩を見つけた。これは映画の三カットの描写ではないか。それから、詩の真似事を始めた。

その後、一年先輩の花森安治を追って、東大文学部の美学を目指した。行ってみると映画のえの字も聞く事はなかった。当時東大の美学は、美学美術史学科と呼ばれ、美学は、漱石の『わが輩は猫である』に出てくる美学者、大塚保治先生亡き後、大西克禮先生が一人孤軍奮闘して居られた。大西先生は、講義ノートの一節を朗読して学生に書かせ、一段落すると、エンタシスの絵を描いたり、ゴシック建築の上昇志向の面白さを絵に描いた。美学出身で映画制作で成功したのは、今井正、荻原耐、後の中島貞夫などである。

私は大学を離れて、キネマ旬報の双葉十三郎や淀川長治らに続いて、寄書欄に送稿していた所、突然、今村太平という者が現れた。フリーチェの社会科学的な目で、英米独仏の映画を次々と分解する長編の連載を始めた。編集者飯田心美の計らいだったという。その迫力は、他を席卷する鋭さがあった。やがて、全国の大学の映画研究会に呼びかけ、同人誌「映画集団」「映画文化」を作った。後の川島雄三などを出した。今村の映画論に、やがてカメラの記録性の強調から、高畑勲に影響を与えたアニメ映画、音楽映画に及び、最後には記録映画論に及び、一カットの写真の中に記録の本質があると主張した。それに対して、岩崎昶は、一カットに続くカットが組み合わせられて意味は生じると反論し、論争が続いた。

ところで、鶴見俊輔の発行した「思想の科学」に、今村は志賀直哉論を書いた所、志賀直哉から葉書を貰い出かけると、「文芸評論家の誰も取り上げなかった『ある一頁』という小説を取り上げてくれて有り難う」と言われ、人とつき合いの嫌いな今村は、志賀直哉と気が合い親しくなった。

今村はそれ以来、映画の記録問題に熱中し映画関係者と絶交し、奥多摩に引っ込んでしまった。病気に冒され、医師と喧嘩し退院、まもなく息を引き取った。死ぬ前、「やるだけの事はやった。資本主義の崩壊を見ないで死ぬのは残念だが」と私に言った。

それから、キネマ旬報にいた岡田晋が、引き続き私に芸術としての映画論を書かせてくれた。キネマ旬報としては、理論に走るの面白く無いと見えて、岡田晋は九州の大学へ移った。その後岡田晋は、映画理論の発展のため学会を作ろうと奔走して、京都の依田義賢、滝澤一などを誘い、東京の心理学者、南博をもち立て映像学会を立ち上げる事になった。志半ばにして岡田晋は亡くなったが、彼の努力は実を結び、映像学会は発足したという。

(すぎやま へいいち/詩人・帝塚山学院大学名誉教授)

映像表現研究会

伊奈 新祐

<報告と計画について>

映像表現研究会が主催する例年の「インターリンク：学生映像作品展2010」が京都上映（10月15日～17日）に引き続き、東京上映会として“東京オペラシティタワー32階アップルジャパンセミナールーム”で11月20日（土）と21日（日）の両日、参加20校の作品を中心に上映されました。

20日（土）18時から、シンポジウム“メディアと映像表現”が行われました。まず私（伊奈）が問題提起の材料として、レフ・マノヴィッチの『ニューメディアの言語』から第6章「映画とは何か？」の内容を掻い摘んで説明しました。デジタル化・コンピュータ化によってもたらされる問題点や新たな映像表現の可能性について考える機会を与えてくれる素材といえます。その後、相内啓司会員による進行によって、順次、参加メンバー（各校の推薦者）それぞれの関心から意見を述べて終了しました。

シンポジウム会場風景



シンポジウム後の懇親会



今回の上映プログラムに関西テレビ主催（日本映像学会後援）の学生映像コンテスト「BACA-JA2010」の入選入賞作品集が新たに加わりました。全国の芸術デザイン系の大学短大専門学校を中心に長く学校推薦制でコンペティションを行ってきたBACA-JA（バカジャ）ですが、今後、ISMIEと合わせて見ることによって、短編を中心とした学生映像作品の毎年の動向を把握する良い機会となるでしょう。

またシンポジウムに先立って行われたミーティングにおいて、「東京上映会」終了後、各校の代表作から「選抜作品」を投票により決めるための手順を確認し、来年の2月末を目標に「ISMIE2010 選抜作品集」(DVD)を作成することを決定しました。

各参加校の出品作品・上映日程など、詳しくは本学会のホームページ【<http://jasias.jp/archives/701>】を、また京都会場の様子などについては、研究会のホームページ【http://d.hatena.ne.jp/e_h_kenkyu/】も併せて参照して下さい。

(いな しんすけ／映像表現研究会代表・京都精華大学)



[ISMIE2010 参加校]

阿佐ヶ谷美術専門学校 時空デザイン科
 イメージフォーラム映像研究所
 大阪芸術大学 芸術学部
 九州産業大学 芸術学部
 九州大学 芸術工学部
 京都精華大学 芸術学部
 女子美術大学 芸術学部
 成安造形大学
 宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部
 多摩美術大学 映像演劇学科
 東京工芸大学 芸術学部
 東京造形大学
 東北芸術工科大学 デザイン工学部
 名古屋学芸大学 メディア造形学部
 名古屋市立大学 芸術工学部
 日本工学院専門学校
 日本大学 芸術学部
 文教大学 情報学部広報学科
 明星大学 情報学部
 早稲田大学川口芸術学校

東部支部第1回講演会／高畑勲氏〔2010年3月20日・日本大学文理学部百周年記念館〕 「アニメーションと日本文化」報告

横田正夫

東部支部の5つの研究会の合同で企画した第1回東部支部講演会が平成22年3月20日（土曜日）に、日本大学文理学部百周年記念館国際会議場で、3時から5時まで開催された。講師にはアニメーション監督として著名な高畑勲監督をお願いした。「アニメーションと日本文化」といった内容で、パワーポイントを使用し、たくさんの美術品を例示しながら、絵巻物の中に、時間経過を描いている様子を語っていた。例えば、火事のような出来事に、興味本位で見物に飛んでゆく人物が、別の場所では、のけぞってみており、あるいは火に追われている、といったように、である。さらには、絵巻物のなかには、出来事を感じさせる、動きが捉えられており、登場人物が驚きのけぞっている様子をそのまま体感できそうに描いている、といったことも語られた。こうした時間経過を描き、しかもそこに運動を描く、というところに、アニメーションのルーツがあるのであろう。日本では、出来事を、言語的に論理的に描くのではなく、時間経過の中に、現実を体感させる動作の絵画的表現によって描いているのである。日本にアニメーション、あるいはマンガといった絵による表現の隆盛が、絵巻物といったものにルーツを持っていると感じさせられる講演となっていて、映像学会の講演会に相応しいものとなった。

講演に先立ち八木信忠会長（当時）の挨拶の後、支部会であることを代表し、田島良一東部支部担当理事の講演会の成立経緯の説明があり、アニメーションがテーマであることから、アニメーション研究会代表の私が司会を担当した。参加者は、105名と盛況であった。この会は、映像学会会員の紹介があれば、だれでも参加可能と設定していたので、



芸術系大学の学部学生の参加が多かった。芸術系大学の学生の参加者は、将来の映像学会を担う存在として、大いに期待できるので、こうした参加は歓迎したい。アニメーション業界からの参加者、外国の研究者の参加もあり、改めて高畑監督への関心の高さが理解された。質疑応答の時間が持たれ、活発な意見の交換がおこなわれた。

講演会の終了後、高畑監督を囲んで、有志で懇親会を開催した。ここでは、講演会で聞かれなかった深いアニメーションに関する議論が起り、有意義な時間を過ごすことができた。

（よこた まさお／映像心理学研究会・アニメーション研究会代表）



映像教育研究会報告

「つくちゅうシネマワークショップ作品上映会」

為ヶ谷 秀一

「映像教育研究会」の研究活動として、今年で3回目となる茨城県つくば市の中学生たちによる映画制作のワークショップに参加した。

「つくちゅうシネマワークショップ作品上映会」

2010年9月12日

筑波大学春日キャンパス メディアユニオンホール

つくば市内で学ぶ中学生（つくちゅう）たち9名（男子4名、女子5名）が参加して、夏休みを中心に18日間をかけて映画制作を行うワークショップの取り組みであり、文化庁の支援も受けて今年で4回目となる。

参加者は、1回目15名、2回目18名、3回目25名と年々増えて来ていたが、今年は9名と応募者が少なくなった。企画・脚本制作、撮影、編集・上映までの全てのプロセスを体験するのが、このワークショップの特徴である。中学生達をサポートするために、筑波大の教員・学生8名、つくちゅうの経験者6名が、プロの映画監督の指導と共に、運営のサポートを行っている。

今年のワークショップの作品は、「小さな結びめ」と言うタイトルの15分の作品となった。撮影は、昨年まで使用した業務用のHDTVカメラ（PMW-EX1）ではなく、自分たちで扱える家庭用のHDハンディカ

ム（HDR-XR25）で行われた。AppleのiMac、Final Cut Studio 2を使用してのポストプロ編集（BGM制作も含む）も、全て中学生たちにより行われた。作品の内容は、中学生たち自身の体験をもとにしたストーリーで、体育祭を前にしてクラスに起こった二人三脚の組み合わせをめぐる、男子と女子の間に起きた出来事をテーマとしている。この夏は、あいにくの猛暑が続き、厳しい状況の中での制作が行われたと言う。完成した作品は、中学生たち自身の運営により、上映会の進行までの映画に関わる全てのプロセスにおいて、責任を持って自分の役割を遂行させるなど、しっかりとした指導が行われている。指導に当たった筑波大学大学院・西岡貞一教授によると、ワークショップには、全ての日程に参加する事が前提であること、人数は15名以下が望ましく、映画製作は俳優のワークショップではなく、撮影・制作が中心であることを強調してワークショップに取り組んだと述べている。参加者の応募が、昨年より少なかった要因の一つと考えられる。

これ等のワークショップを通して蓄積された経験をもとに、西岡教授は「学校で、教師が映像表現を教えられるような教科書を作りたい。」と述べている。

映像教育研究会の中でも、このテーマについて更に議論を深める研究会を開催して行く事としたい。会員各位の積極的な参加を期待しています。



(ためがや ひでいち/映像教育研究会代表・女子美術大学大学院)

東部支部第27回映画文献資料研究会／Arta TABAKA氏〔2010年12月11日・日本大学芸術学部〕 「映画の中の子供たち—羽仁進、大島渚、 F・トリュフォーの場合」報告

田島 良一

映画文献資料研究会では、去る12月11日（土）の午後3時から5時まで日本大学芸術学部E棟204教室に於いて第27回の研究会を開催しました。発表者はラトビアから文部科学省の国費留学研究生として来日しているアルタ・タバカ（Arta TABAKA）氏で、「映画の中の子供たち—羽仁進、大島渚、F・トリュフォーの場合」というテーマで研究発表をお願いします。以下はタバカ氏による発表のレジュメです。

1954年、羽仁進監督は『教室の子供たち』を作った。この作品は、教師に教室で生徒をどう指導したらよいかを教えるための映画である。しかし、従来の教育映画と違い、羽仁は新しいドキュメンタリーを生み出した。演技しないで子供をそのまま撮り、子供の姿を非常に生々しくとらえた作品である。演技しないことを強調し、次の作品でも演技によって物語を説明するのではなく、演じる人々に自己を発表してもらう。こうして、羽仁の作品の中（『教室の子供たち』、『絵を描く子供たち』、『不良少年』）の子供は現実的で自然であり、実際に存在している人物を映している。それに対して、大島渚監督は、自分の作品の中（『愛と希

望の街』、『少年』）で子供の姿によって社会的な問題、世の中の構成を表現している。社会の犠牲者でありながら、世の中の不条理さ、不愉快さを体験していく主人公の子供は、厳しい生活を送り、世の中には正義があるかどうか、正義とはなんだろうかを疑っており、解答を考えている。子供たちは、決して子供らしい甘えた態度はとらない、深刻で責任のある人物である。また、トリュフォー監督作品『大人は判ってくれない』は羽仁と大島と違い、大人の視点ではなく、少年側にカメラを置き、少年の目で見える世界を映している。自伝的な映画であり、トリュフォーの自己の子供時代を証明しており、子供の喜び、不満、世界の見方を表現している。

以上の内容の発表がビデオやDVDによる一部上映を交えて約90分あり、その後出席者からの質疑応答が30分にわたり活発に交わされました。研究会の終了後はタバカ氏を囲んで恒例の懇親会を開き、ここでもラトビアの映画事情など、熱心に意見交換がなされ、今年最後にふさわしく盛り上がった研究会となりました。

（たじまりょういち／映画文献資料研究会代表）

information

学会組織活動報告

支部・研究会だより 関西支部

大橋 勝

関西支部では、神戸大学人文学研究科の前川修会員のお世話により、以下の要領で関西支部幹事会、第61回研究会、支部総会ならびに懇親会を開催しました。

日程：平成22年12月11日（土）

会場：神戸大学 六甲台第二キャンパス

研究発表

「デジタル映像表現におけるレイヤー構造に関する研究—2Dと3Dをリンクするイメージ」

京都精華大学大学院芸術研究科博士後期課程 孟祥宇会員

「瞬間、身体、連続—アルベール・ロンドの写真実践について」

神戸大学大学院人文学研究科博士後期課程／日本学術振興会特別研究員 増田展大会員

孟会員の発表は、コンピュータによるデジタル処理を応用した自らの映像作品「私とファン・ゴッホの部屋」（2005）と「量（Layers）」（2008）の制作プロセスを技術的に解説することを軸に進行了。「私と…」においては、デジタル映像表現におけるレイヤーの扱いと、セルアニメやマルチプレーンカメラなど、従来のアニメーション技術との関係が示

されました。レイヤー構造そのものを表現する試みである「量」においては、2Dデータを3Dバーチャル空間に構成し、更に観客の視点を定める架空のカメラがその中に設置されるという方法で制作が行われています。そこでは舞台セット、ピープショー、しかけ絵本などの視覚装置が引合いに出され、現代のデジタルテクノロジーを応用した映像表現が、視覚文化の歴史と地続きであることが示されました。

増田会員の発表は、19世紀のフランスで活躍した写真家アルベール・ロンドの連続写真／瞬間写真について、先行研究を踏まえつつ詳細な分析が行われました。エドワード・マイブリッジやエティエンヌ＝ジュール・マレーとの比較を通しながら、科学性と美学的要請、医療目的と好奇心など矛盾する時代の要求の間でどのような実践が行われたのか、それらを今日どう評価するのか重要な示唆が与えられました。質疑応答も活発に行われ、両研究とも意義のある議論が展開されたと思います。

総会では平成22年度事業報告、平成22年度会計報告、平成23年度事業計画案が承認されました。懇親会はJR六甲道駅近くの「ふくべ」というお店で、忘年会を兼ねたおいしいお酒と料理による楽しい会が行われました。

今後の活動計画としては、神戸芸術工科大学を当番校として平成23年3月12日（土）に第62回研究会を、同5月に花園大学で第63回研究会を開催する予定です。また恒例となりました第33回夏期映画ゼミナールを7月29日（金）、30日（土）、31日（日）に開催予定です。上映作品とテーマは現在幹事会にて検討中です。こちらも決まり次第ご案内いたしますので、楽しみにお待ち下さい。

（おおはしまさる／関西支部担当理事・大阪芸術大学）

支部・研究会だより 西部支部

中村 滋延

<活動記録>

◎平成 22 年度第 2 回研究会

日時：平成 22 年 12 月 11 日（土）15：00?18：00

会場：九州大学大橋キャンパス 5 号館 531 教室（3 階）

・研究発表 1

「独裁者（1940）におけるトーキー独自の表現手法の分析」

発表者：川尻大輔・中村滋延（九州大学大学院、芸術工学府・芸術工学研究院）

要旨：チャップリン初の完全トーキー作品《独裁者》では、サイレント作品ではなし得なかったトーキー独自の表現手法が使われている。その中から台詞とモノ音に注目し、3つの場面の分析及び考察を行った。

・研究発表 2

「デジタルカメラを利用した映像制作について」

発表者：岩田 敦之（西日本工業大学 デザイン学部 情報デザイン学科）

要旨：デジタル一眼レフカメラに動画撮影機能が追加され、様々な場面で使用されようになっている。多様なレンズや浅い被写界深度等、デジタル一眼レフカメラならではの表現を活かした作品制作を通して、映像撮影機材としての効果の検証を行った。さらに作成した映像作品の上映と解説を行った。

・研究発表 3

「多様な条件下での 2 眼式立体映像制作支援に関する研究」

発表者：石井達郎（九州大学大学院、芸術工学研究院）

要旨：デジタルアーカイブにおいて安全かつ臨場感のある立体映像を制作・呈示するための体系的な方法論を確立し、エンターテイメントなど多様な条件においても立体映像制作を効率的に支援できるツールの開発を目指す研究に関して、現時点での研究成果の発表を行った。

◎関連企画

「現代音楽×メディアアート ―音響と映像のシンセシス―」

日時：平成 22 年 11 月 23 日（火・祝）15：00—17：00

会場：西南学院大学コミュニティセンターホール（3 階）

西部支部理事中村滋延の還暦記念コンサート / 作品上演・上映+講演で、講演 2「メディアアートとしての映像音響詩」が映像学会に関連した内容であり、中村の 5 つの映像音響詩が解説付きで上映された。

「フィリピンのビデオアート」

日時：平成 22 年 11 月 7 日（日）15：00—17：00

場所：福岡アジア美術館 あじびホール

福岡アジア美術館滞在中のフィリピン人のキュレーター、ホセリナ・クルス氏による講演会。同時に日本語字幕付きでギドラット・タヒミック監督の『悪魔の香り』も上映された。

<次年度予定>

◎研究会

これまで同様、年 2 回の研究会を開催。日時と場所は調整中。

◎関連企画

・ここ数年毎年開催されている 6 月上旬の福岡市総合図書館映像ホール「シネラ」におけるイメージフォーラム・フェスティバルを、来年度も西部支部の関連催しとする方針を決め、講演会を開催する。日時は調整中。

・学生映像作品展 ISMIE 福岡上映会 + 関連イベントを開催。日時と場所は調整中。

<支部ホームページ>

現在、以下に西部支部ホームページが開設されている。会員の自由な書き込みも可能であり、情報の交換・発信に積極的に役立てていただき、内容の充実を目指していきたい。

<http://www5.atpages.jp/~jasiaswest/>



<関連企画の拡充>

西部地区における映像関連の催しへの会員の参加を促すために、それらの催しに対して西部支部「関連企画」として、名義後援や共催、協力などを積極的に行うことを確認した。関連企画になりそうな情報があれば、支部担当理事・中村（sn@desgin.kyushu-u.ac.jp）まで知らせていただきたい。

（なかむら しげのぶ/西部支部担当理事、九州大学大学院芸術工学研究院）

2010年11月実施会員アンケートより 会員研究テーマ

事務局

◆氏名(しめいよみ)

所属/専門

(1) 研究テーマ1

(2) 研究テーマ2

東部支部

◆阿金(あじん)

SGRA 研究員吹米・アジア語学センター/映画・TV

- (1) 映像越境の美学
- (2) 映像教育の国際化

◆相澤大吾(あいざわだいご)

富士ゼロックス(株)/システム開発

- (1) 協調作業支援システム

◆相澤秀一(あいざわひでかず)

日本大学芸術学部映画学科/広告表現

- (1) 日米広告表現史
- (2) 環境コミュニケーション

◆赤崎陽子(あかさきようこ)

東京国立近代美術館フィルムセンター/映画史

- (1) フランスにおける映画振興の歴史
- (2) 映画の教育・普及

◆浅沼圭司(あさぬま けいじ)

美学

- (1) 物語と画像
- (2) 芸術制作論

◆東英児(あずま えいじ)

日本工学院専門学校放送・映画科/映像表現

- (1) 地域活性化と映像表現

◆安藤紘平(あんどう こうへい)

早稲田大学国際情報通信センター/映画演出

- (1) 映画映像の新しい表現の研究
- (2) ネットワークを用いたデジタルシネマ制作の研究

◆飯島泰裕(いじま やすひろ)

青山学院大学社会情報学部/社会情報論

- (1) ICTによるコミュニティの活性化

◆池川玲子(いけがわ れいこ)

実践女子大学(非常勤)/女性史

- (1) 満州映画協会 組織と作品
- (2) 戦時下日本映画のジェンダー視点からの分析

◆井坂能行(いさか よしゆき)

東京造形大学、日本工学院専門学校、岩波映像(株)/映像プロデューサー、監督・脚本

- (1) 地域文化、地域史・社会史に関わる映像
- (2) 地域における映像の利活用

◆石坂健治(いしざか けんじ)

東京国際映画祭事務局/映画祭ディレクター

- (1) アジア映画論
- (2) 日本ドキュメンタリー映画史

◆石原香絵(いしはら かえ)

NPO 法人映画保存協会/アーカイブ

- (1) 映像アーカイブ

◆石渡(堤)さくら(いしわた(つづみ)さくら)

日本大学芸術学部放送学科/放送

- (1) 映像表現研究
- (2) 子ども番組研究

◆板倉史明(いたくら ふみあき)

東京国立近代美術館フィルムセンター/映画学

- (1) 日本映画史
- (2) フィルム・アーカイブ

◆伊藤隆介(いとう りゅうすけ)

北海道教育大学芸術課程美術コース映像研究室/映像

- (1) 実験映画制作及びビデオアート
- (2) マンガ評論(村雨ケンジ名義)

◆今橋映子(いまはし えいこ)

東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻/比較文学・比較文化

- (1) 日・欧写真史

◆上田学(うへだ まなぶ)

早稲田大学坪内博士記念演劇博物館/映画史

- (1) 無声映画の受容論
- (2) 初期映画研究

◆植田寛(うへだ ゆたか)

日本工学院八王子専門学校放送・映画科/映像教育、制作技術

- (1) 高等教育における映像専門教育
- (2) DTPP等を用いた効果的な映像制作方法

◆大石和久(おおいし かずひさ)

北海学園大学人文学部/美学

- (1) 映画・写真の美学的考察
- (2) 映画における北海道表象

会員研究テーマ

◆大久保 遼 (おおくぼりょう)

東京大学大学院学際情報学府博士課程/社会学、メディア論

- (1) 視覚報道の歴史研究
- (2) 19世紀転換期の映像文化

◆大島 慶太郎 (おおしまけいたろう)

北海道情報大学情報メディア学部/映像表現

- (1) 映像メディア表現における動画構造の解体と再構築
- (2) 映像教育

◆大津 はつね (おおつ はつね)

東京工芸大学芸術学部映像学科/映像芸術、メディア・アート

- (1) 身体と映像芸術表現 (パフォーマンスと映像について)
- (2) 映像造形教育

◆大房 潤一 (おおふさ じゅんいち)

青山学院大学/ビデオアート、インスタレーション

- (1) 映像メディア
- (2) 個人映画

◆大山 勝美 (おおやま かつよし)

(株) カズモ/テレビドラマの制作・演出

- (1) 日本のテレビドラマ史
- (2) 日本のテレビドラマの特徴

◆岡川 純子 (おかがわ すみこ)

武蔵野美術大学映像学科/視覚伝達デザイン

- (1) 映像基礎教育について

◆小笠原 隆夫 (おがさはら たかお)

日本大学芸術学部映画学科/映像理論、映像制作

- (1) 映像了解の特質の理論化
- (2) 身体表出の日本の特徴と映像表現

◆岡島 尚志 (おかじま ひさし)

東京国立近代美術館フィルムセンター/映画

- (1) 映画史
- (2) フィルム・アーカイブ

◆岡田 秀則 (おかた ひでのり)

東京国立近代美術館フィルムセンター/映画史

- (1) 映画史
- (2) 映画のアーカイヴィング

◆岡村 忠親 (おかむら ただちか)

全国漁業共済組合連合会総務部/日本映画史

- (1) 成瀬巳喜男研究
- (2) 日本映画史

◆小川 佐和子 (おがわ さわこ)

早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程/映画史

- (1) 1910年代のヨーロッパ無声映画史
- (2) 日本無声映画と諸芸能の関係

◆沖 啓介 (おき けいすけ)

東京造形大学/メディアアート

- (1) アートとテクノロジー

◆奥野 邦利 (おくの くにとし)

日本大学芸術学部映画学科/映像表現

- (1) 映像と記憶の関係性をコンセプトとしたメディアアート制作
- (2) 映像芸術における表象と社会制度の関係性

◆奥村 賢 (おくむら まさる)

いわき明星大学人文学部表現文化学科/映像/映画研究

- (1) 映画と政治社会との関係
- (2) 記録映画論

◆櫻坂 英子 (おさか えいこ)

駿河台大学/社会心理学

- (1) メディアとジェンダー
- (2) コミュニケーションツールとしての映像

◆風間 正 (かざま せい)

明星大学情報学部/映像芸術、メディア・アート

- (1) 情報負荷社会における映像芸術表現
- (2) 映像表現教育とその現状

◆春日 太一 (かすが たいち)

フリーランス/文章全般

- (1) 時代劇など

◆片淵 須直 (かたぶち すなお)

日本大学芸術学部映画学科/アニメーション

- (1) アニメーション

◆加藤 到 (かとう いたる)

東北芸術工科大学映像学科/実験映画、ドキュメンタリー

- (1) アバンギャルドとドキュメンタリー
- (2) コミュニケーションとしてのメディア・アート

◆金丸 幹夫 (かなまる みきお)

(株) プラスアルファ/会社代表

- (1) 映像産業関連 (NPO 日本ビデオコミュニケーション協会理事長)

◆兼子 正勝 (かねこ まさかつ)

電気通信大学情報理工学専攻/映像理論

- (1) イメージ論
- (2) 映像論

会員研究テーマ

◆氏名 (しめいよみ)

所属/専門

(1) 研究テーマ 1

(2) 研究テーマ 2

◆川口 吾妻 (かわぐち あづま)

女子美術大学/コンピュータグラフィックス

(1) 障害児者のためのコンピュータ技術活用

(2) アート&デザインファシリテーター養成

◆川崎 公平 (かわさき こうへい)

北海道大学大学院文学研究科博士後期課程/映像論

(1) 黒沢清論

(2) 視覚メディアと恐怖表象

◆川崎 三郎 (かわさき さぶろう)

コミュニケーション理論、映画産業

(1) コミュニケーション理論

(2) 映像産業史

◆かわなかのぶひろ

イメージフォーラム映像研究所/映像

(1) 実験映画

(2) 映画前史

◆木原 圭翔 (きはら けいしょう)

早稲田大学大学院文学研究科演劇映像学コース/映画研究

(1) 古典的ハリウッド映画

(2) スタンリー・カヴェルの映画論

◆木船 園子 (きふね そのこ)

東京工芸大学芸術学部アニメーション学科/アニメーション

(1) アニメーションのデジタル化について

◆木船 徳光 (きふね とくみつ)

東京造形大学造形学部デザイン学科/3DCG アニメーション

(1) アニメーション

(2) 3DCG とアニメーション

◆木水 千里 (きみず ちさと)

成城大学 (非常勤) / 美学

(1) マン・レイ

(2) モダニズム写真の美学的考察

◆木村 和代 (きむら かずよ)

(株) IMAGICA イメージワークス/映像制作

(1) 映像が再現する時間と、空間の時間について

(2) モバイル動画の実際と活用法

◆草原 真知子 (くさはら まちこ)

早稲田大学文学学術院/メディアアート、映像文化史

(1) メディアアート及びデジタルメディア

(2) 映像文化史、メディア考古学 (写し絵、幻燈、パノラマなど)

◆隈部 修市 (くまべ しゅういち)

(株) イメージジャパン、日本画指導者育成会 (株) / 技術教育と映像

(1) 教育プログラムの構造化とシステム

◆小池 浩央 (こいけ ひろひさ)

École Supérieure des Beaux-Arts de Nantes Métropole / 写真

(1) 写真論

◆古賀 太 (こが ふとし)

日本大学芸術学部映画学科/映画

(1) 映画史

◆小林 杏 (こばやし あんぬ)

早稲田大学/写真文化論

(1) 写真文化論

◆小林 和彦 (こばやし かずひこ)

関東学院大学/映像制作

(1) 実写映像とコンピュータグラフィック技術を組み合わせた映像表現

◆小林 裕和 (こばやし ひろかず)

経済産業省特許庁/情報デザイン

(1) Motion Scale

(2) Motion Palette

◆近藤 耕人 (こんどう こうじん)

明治大学名誉教授/文学、映像論

(1) サミュエル・ベケットの Film をめぐる見ることについて

(2) ヴァジニア・ウルフの「波」と運動

◆斉藤 綾子 (さいとう あやこ)

明治学院大学文学部芸術学科/映画研究

(1) フェミニズム映画理論

(2) メロドラマ研究

◆齋藤 泉 (さいとう いずみ)

(株) TBS テレビ/報道

(1) ニュース映像とドキュメント論

(2) メディア・リテラシー

◆阪本 裕文 (さかもと ひろふみ)

稚内北星学園大学/映像

(1) 映像史研究

会員研究テーマ

◆坂本 佳子 (さかもと よしこ)

脚本

- (1) 脚本
- (2) 向田邦子研究

◆佐々木 悠介 (ささき ゆうすけ)

日本学術振興会特別研究員 PD (東京大学) / 仏語・英語圏写真論

- (1) 仏語・英語圏写真論
- (2) 写真と文学

◆佐崎 順昭 (ささき じゆんあき)

映画

- (1) 日本映画
- (2) 映画関係資料

◆佐相 勉 (さそう つとむ)

日本映画史

- (1) 溝口健二

◆佐藤 英里子 (さとう えりこ)

横浜美術大学映像メディアデザインコース、東京電機大学 (非常勤) / ビデオ表現

- (1) ビデオ制作と表現
- (2) 映像教育

◆佐藤 淳二 (さとう じゆんじ)

北海道大学大学院文学研究科 / フランス思想と表象論

- (1) フランス思想—表象理論史
- (2) 現代思想における J.L. ゴダール

◆佐藤 忠男 (さとう ただお)

日本映画大学 / 映画批評

- (1) 日本映画史
- (2) アジア映画史

◆佐藤 博昭 (さとう ひろあき)

映像制作

- (1) ドキュメンタリー映像の研究
- (2) ビデオ表現史の研究

◆佐藤 由紀 (さとう ゆき)

東京大学社会科学研究所 / 生態心理学、演技分析

- (1) 身体論
- (2) 映像心理分析

◆佐藤 洋 (さとう よう)

共立女子大学、早稲田大学 / 映画史研究

- (1) 日本の映画運動史の研究
- (2) ナショナル・フィルムグラフィック作成、映画文献書誌研究

◆品田 雄吉 (しなだ ゆうきち)

多摩美術大学名誉教授 / 映画評論

- (1) アメリカ映画
- (2) アメリカ映画史

◆柴崎 敦 (しばさき あつし)

川口市教育局学校教育指導課 (川口市教育委員会) / 映像教育

- (1) 高校生への映像教育

◆柴田 崇 (しばた たかし)

メディア論

- (1) M. マクルーハンのメディア論
- (2) サイボーグ思想

◆柴田 良二 (しばた りょうじ)

東京電機大学理工学部情報システムデザイン学系 / メディア・アート

- (1) インタラクティブ・アート作品の企画・制作

◆島 啓一 (しま けいいち)

小型映画

- (1) フィルムでのホームムービー

◆陣内 利博 (じんのうち としひろ)

武蔵野美術大学造形学部 / 視覚伝達デザイン

- (1) 複眼体験
- (2) 視覚伝達デザインの視点からメディア・コンテンツ (映画・マンガ・アニメーション・メディアアート等) を読む

◆新堀 孝明 (しんぼり たかあき)

女子美術大学メディアアート学科 / 映像

- (1) 映像メディアにおける表現形態の追究
- (2) メディアアートにおけるヒーリングアートの可能性

◆末岡 一郎 (すえおか いちろう)

阿佐ヶ谷美術専門学校メディアデザイン科 / 実験映画

- (1) 実験映画制作、実験映画歴史研究
- (2) アマチュア映画史研究

◆杉野 健太郎 (すぎの けんたろう)

信州大学人文学部 (英米文学・文化) / 映像文化

- (1) アメリカ映画
- (2) 現代日本映画・テレビドラマ

◆杉山 則生 (すぎやま のりお)

日本大学芸術学部所沢校舎 / 映像技術

- (1) 映像一般

◆關次 和子 (せきじ かずこ)

東京都写真美術館 / 写真史

- (1) 自然写真史研究

会員研究テーマ

◆氏名 (しめいよみ)

所属/専門

(1) 研究テーマ1

(2) 研究テーマ2

◆関谷 信浩 (せきやのぶひろ)

東放学園映画専門学校/映像

(1) 物語の構造

(2) シナリオ実作

◆瀬島 久美子 (せじまくみこ)

名古屋学芸大学メディア造形学部映像メディア学科/映像

(1) 都市と情報 情報化社会における都市と情報

◆高田 哲雄 (たかだてつお)

文教大学情報学部広報学科/CG

(1) 3D 立体映像

(2) デジタル・コンテンツ

◆高橋 恭子 (たかはしきょうこ)

早稲田大学川口芸術学校/映像ジャーナリズム

(1) ポストテレビ時代のインデペンデントメディア

◆高山 隆一 (たかやまりゆういち)

東京工芸大学芸術学部映像学科/映画

(1) 映画史

(2) 映像教育論

◆武井 基純 (たけい もとずみ)

(株)野村総合研究所経営情報コンサルティング部/コンサルタント

(1) メディア産業の展望

(2) 映像関連事業の成立環境

◆竹内 正人 (たけうちまさひと)

日本工学院八王子専門学校マルチメディア科、立教大学(兼任)/映像表現

(1) 比較表現

(2) 映像教育

◆竹上 正明 (たけがみまさあき)

写真・デジタル映像

(1) 写真合成表現

(2) デジタルイメージ映像表現

◆武田 潔 (たけだきよし)

早稲田大学文学学術院/映画理論

(1) 映画とその分身

(2) フランス映画言説史

◆竹林 紀雄 (たけばやし のりお)

文教大学情報学部広報学科放送・映像分野、文教大学大学院情報学研究科映像表現専攻/映像表現、映像メディア論

(1) 1960～70年代の初期テレビ・ドキュメンタリーについての研究

(2) 3D、4Kなどが可能にする新しい映像表現についての研究

◆竹峰 義和 (たけみね よしかず)

日本大学法学部/表象文化論

(1) フランクフルト学派の映像メディア論

(2) ドイツ七命映画史

◆田島 良一 (たじまりょういち)

日本大学芸術学部映画学科/日本映画史

(1) 寿々喜多呂九平研究

◆田村 順也 (たむら じゅんや)

(株)ティ・ジョイ興行部企画開発室/映画

(1) 映画脚本

(2) 怪談・ホラー映画論

◆為ヶ谷 秀一 (ためがや ひでいち)

女子美術大学大学院/メディアテクノロジー & アート

(1) 高精細映像、HDTV、S3D

(2) メディア・アート

◆塚本 まゆみ (つかもと まゆみ)

映像論

(1) 映像におけるマイノリティ表象

(2) 映像における身体

◆月野木 隆行 (つきのき たかゆき)

東放学園専門学校/映像理論

(1) 映像リテラシー

(2) 映画論

◆丁 祈方 (てい きほー)

国立台湾芸術大学/映画

(1) 映画製作、デジタルシネマ、映画表現

◆手嶋 毅 (てしまつよし)

Teshima Creative Associates / デジタルアーカイブ

(1) デジタルアーカイブ

(2) こども美術鑑賞教室

◆寺嶋 春菜 (てらしまはるな)

映像

(1) 具体音楽と映像の関係

(2) Second Life におけるマシネマの可能性

会員研究テーマ

◆戸田 昌子 (とだ まさこ)

東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学専攻攻京造形大学 (非常勤) / 写真史

- (1) アジア太平洋戦争期における日本の近代写真運動の動向
- (2) 外地における日本人写真家についての研究

◆中垣 恒太郎 (なかがき こうたろう)

大東文化大学 / アメリカ文化

- (1) アメリカ初期映画
- (2) ドキュメンタリー映画

◆中川 伊希 (なかがわ いき)

プシケリング / ソーシャルシネマ

- (1) 映像制作を用いた人間のメディアーション

◆中川 邦彦 (なかがわくにひこ)

春秋映画 (株) / 映画物語論

- (1) 映画作品の物語組織形相論
- (2) 映画作品における語り主体の複数化

◆中島 崇 (なかじま たかし)

東京造形大学 (非常勤) / 映像

- (1) フィルム、電子、デジタルに至る映像史

◆中野 昭慶 (なかの てるよし)

映画演出

- (1) 特殊技術

◆中村 秀之 (なかむら ひでゆき)

立教大学現代心理学部映像身体学科 / 映画研究

- (1) 1950年代の映画
- (2) イメージ論

◆仲村 浩 (なかむら ひろし)

(株) 電通テック CSR 推進センター / 広告・プロモーション

- (1) 広告映像、広告メディア
- (2) イベント・展示映像

◆中山 信子 (なかやまのぶこ)

映画史

- (1) フランス映画史
- (2) ジェンダー映画研究

◆西村 智弘 (にしむら ともひろ)

東京造形大学デザイン科映画コース、多摩美術大学共通教育、東京工芸大学インタラクティブ・アート科、阿佐ヶ谷美術専門学校メディアデザイン科 / 映像・美術

- (1) 映像史 (写真、映画、アニメーション、ビデオ、CG を含む映像一般の歴史)
- (2) 映像理論

◆西村 安弘 (にしむら やすひろ)

東京工芸大学芸術学部映像学科 / 映画学

- (1) イタリア映画史
- (2) 映画理論の現象学的研究

◆野地 朱真 (のじすま)

尚美学園大学芸術情報学部情報表現学科 / CG

- (1) CG を用いた造形・映像・インスタレーション制作
- (2) 広視野映像と感性情報

◆野村 康治 (のむら こうじ)

日本大学文理学部 (非常勤) / 心理学

- (1) アニメーションに関する心理学的研究
- (2) カメラ撮影に関する心理学的研究

◆萩原 朔美 (はぎわら さくみ)

多摩美術大学映像演劇学科 / 映像制作

- (1) 映像表現論
- (2) 作品制作研究

◆長谷川 功一 (はせがわ こういち)

北海道大学大学院文学研究科専門研究員 / アメリカ映画

- (1) フィルム・ノワール研究

◆長谷川 一 (はせがわ はじめ)

明治学院大学文学部芸術学科 / メディア論

- (1) ミュージカル映画のメディア論的読み直し

◆長谷川 芳和 (はせがわ よしかず)

(株) 日中社 / 映画史

- (1) 中国映画史

◆波多野 哲朗 (はたの てつろう)

日本大学芸術学部・大学院 / 映像学・映画学

- (1) 映像表現と諸芸術との共時的関係について
- (2) ドキュメンタリー映画の制作

◆波戸岡 景太 (はとおか けいた)

明治大学理工学部 / アメリカ文化

- (1) ポスト・ウェスタン表象

◆浜野 保樹 (はまの やすき)

東京大学大学院新領域創成科学研究科 / メディア論

- (1) 映像制作工程
- (2) 映画流通

◆原 直久 (はら なおひさ)

日本大学芸術学部写真学科 / 写真芸術

- (1) 写真の諧調再現の可能性
- (2) アナログとデジタルによるハイブリッドな写真表現

会員研究テーマ

◆氏名 (しめいよみ)

所属/専門

(1) 研究テーマ1

(2) 研究テーマ2

◆原田 健一 (はらだ けんいち)

新潟大学人文学部人文社会・教育科学系/映像メディア

(1) 地域映像アーカイブ

(2) 映像社会学

◆播磨 徹 (はりまと おとる)

映像技術・DVD

(1) 記憶の再視覚化

(2) 規格・メディア特性の表現

◆日高 優 (ひだか ゆう)

群馬県立女子大学/表象文化論

(1) 写真論

(2) アメリカ映像文化論

◆百束 朋浩 (ひやくそく ともひろ)

映像

(1) ファイルベースワークフロー

(2) 映像技術

◆檜山 博士 (ひやま ひろし)

東京国立近代美術館フィルムセンター事業推進室/アメリカ映画史

(1) D・W・グリフィス監督作品の技法、形式の研究

(2) 初期映画の形式展開と演劇形式との連関に関する研究

◆昼間 行雄 (ひるま ゆきお)

(財) 児童育成協会こどもの城 AV 事業部/アニメーション

(1) 映像教育と教育普及活動

(2) アニメーション

◆広沢 文則 (ひろさわ ふみのり)

日本大学芸術学部映画学科/映画技術

(1) 映画技術史

(2) カラー映画技術

◆藤井 仁子 (ふじい じんし)

早稲田大学文学学術院/映画学

(1) 日本映画 (記録映画を含む)

(2) 現代アメリカ映画

◆藤本 直樹 (ふじもと なおき)

STUDIO F+ (スタジオ エフ プラス) /映像製作

(1) 日本の特撮映画についての研究

(2) 映画興業・映画館についての研究

◆前澤 哲爾 (まえざわ てつじ)

山梨県立大学国際政策学部国際コミュニケーション学科/メディア論

(1) 映画による脳活性化

◆増田 玲 (ますだ れい)

東京国立近代美術館美術課/写真史

(1) 日本の戦後写真史

◆まつかわ ゆま

(株) ベアーズ/日本万華鏡博物館、東放学園音響専門学校アナウンス学院、明治学院大学大学院修士課程/映画学

(1) ドキュメンタリー作家松川八洲雄について

(2) '90年代ハリウッドの女性映画人について

◆松本 俊夫 (まつもと としお)

日本大学大学院芸術学研究科 (客員教授) /映像作家

(1) 映像表現の実験的諸相とその意義

(2) 映画の時空間と物語の脱構築

◆水由 章 (みずよし あきら)

(株) ミストラルジャパン早稲田大学川口芸術学校/映像制作

(1) 実験映画

◆三井 秀樹 (みつい ひでき)

玉川大学芸術学部メディアアーツ学科/メディアアート

(1) 構成学の成立と現代の造形教育

(2) メディアアートにおける表現性

◆三橋 純 (みつはし じゅん)

横浜美術大学/写真

(1) 写真論

(2) (写真・映像・アニメ) メディア論

◆水口 紀勢子 (みなぐち きせこ)

帝京大学外国語学部/映画学

(1) 映像と母性

(2) 比較文化論

◆三輪 健太郎 (みわ けんたろう)

学習院大学大学院人文科学研究科身体表象文化学専攻/表象文化学

(1) マンガと映画の比較メディア論

◆森田 和夫 (もりた かずお)

駒沢女子大学人文学部映像コミュニケーション学科/デジタルアニメーション、CG

(1) デジタルアニメーション

(2) コンピュータ・グラフィックス

◆森永 純 (もりなが じゅん)

写真

(1) 風景写真

会員研究テーマ

◆守安 敏久 (もりやす としひさ)

宇都宮大学教育学部/日本近代文学

- (1) 文学と映画との相互影響の研究
- (2) 寺山修司研究

◆矢澤 利弘 (やざわ としひろ)

映画専門大学院大学映画プロデュース研究科/映画産業論

- (1) 映画祭のマネジメント
- (2) イタリア映画史

◆八文字 俊裕 (やつもんじ としひろ)

(有) メディアハウスユー/デジタルメディアアート表現企画・制作

- (1) デジタルメディアのアート表現技法
- (2) 映画、テレビ、インターネット等への応用露出

◆箭内 匡 (やないただし)

東京大学大学院総合文化研究科文化人類学研究室/文化人類学

- (1) イメージの人類学

◆山口 勝弘 (やまぐち かつひろ)

美術

- (1) 映像インターメディア

◆山下 耕 (やました こう)

東京工芸大学芸術学部映像学科テレビ・ビデオ研究室/スイッチング

- (1) テレビジョン放送におけるスイッチング制作についての研究
- (2) 大学におけるテレビ番組制作実習の諸問題について

◆山下 史朗 (やました しろろう)

Production I. K/U / 映像

- (1) 映画作品に継承される個人と共同体を考察することによる、70年代以降のアメリカ映画の作家のテキスト構造の分析

◆山中 剛史 (やまなか たけし)

日本大学芸術学部(非常勤)/日本近代文学

- (1) 映画と文学
- (2) 表象文化論

◆山根 千明 (やまね ちあき)

慶應義塾大学大学院文学研究科博士後期課程美学美術史学専攻/美術史

- (1) バウハウス(および1920年代)における動画像的関心
- (2) 造形芸術と心理学との影響関係

◆山本 佐恵 (やまもと さえ)

日本大学芸術学部(非常勤)/美術史・映画史

- (1) 日本映画

◆ヤング ポール

映画

- (1) 映画演出

◆横川 真顕 (よこかわ しんけん)

日本大学芸術学部映画学科/映画・映像

- (1) 映画及び映像芸術文化の動向
- (2) メディアコミュニケーションの変動と人間関係

◆横田 安正 (よこた あんせい)

ドキュメンタリー映画

- (1) ドキュメンタリー作品の構成法について

◆横濱 雄二 (よこはま ゆうじ)

北海道大学大学院文学研究科/映像・表現文化論

- (1) アニメーションを中心としたメディアミックス
- (2) 戦後日本のメディア文化

◆吉川 信雄 (よしかわ のぶお)

CGアート

- (1) ジオメトリー

◆吉田 ひさよ (よしだ ひさよ)

クリスティ・デジタル・システムズ日本支社

認知工学、CG、ビジュアルライゼーション

- (1) 3DVR空間におけるユーザーインターフェース設計技術
- (2) 2D → 3D グラフィカルユーザーインターフェースデザイン

◆吉村 和文 (よしむら かずふみ)

(株) ケーブルテレビ山形/放送・通信

- (1) 放送と通信の融合
- (2) パーチャルリアリティ

◆李 仙姫 (りー せんひ)

(有) ビアンドエス企画/映像表現様式

- (1) ナム・ジュン・パイクの表現研究

◆劉 洋 (りゅう よう)

北海道大学大学院文学研究科言語文学専攻映像表現文化論専修/映像・

表現文化論

- (1) 90年代以降の中国映画

◆渡部 英雄 (わたなべ ひでお)

日本工学院八王子専門学校マンガ・アニメーション科湘南工科大学コン

ピュータデザイン・応用学科(非常勤)/映像表現論、アニメ演出・アニメーター

- (1) アニメーション映像に於ける能表現の試み『英語能・ハムレット』のアニメーション制作
- (2) 日本のアニメーション映像の特徴と日本の伝統芸能、能、文楽、歌舞伎の関係

◆渡邊 光章 (わたなべ みつあき)

駒沢女子大学人文学部映像コミュニケーション学科/デザイン

- (1) CG イラストレーション
- (2) CG デザイン

会員研究テーマ

◆氏名 (しめいよみ)

所属/専門

(1) 研究テーマ1

(2) 研究テーマ2

関西支部

◆赤井 敏夫 (あかいとしお)

神戸学院大学人文学部/インド映画

(1) インド映画における神話の主題

(2) 南アジアにおける言語圏別の観客の受容行動

◆安部 孝典 (あべたかのり)

関西学院大学大学院文学研究科博士後期課程美学芸術学専攻/映画

(1) フランス映画

◆網干 毅 (あぼしつよし)

関西学院大学文学部/音楽

(1) ミュージカル

◆有吉 末充 (ありよしすえみつ)

京都学園大学人間文化学部/アニメーション

(1) アニメ文化論

(2) メディアリテラシー

◆伊集院 敬行 (いじゅういん たかゆき)

島根大学法文学部言語文化学科/芸術学

(1) 中井正一の映画論に見られる精神分析理論の影響

(2) ル・コルビュジェの機械美学に見られる映像的性質について

◆伊奈 新祐 (いなしんすけ)

京都精華大学大学院芸術研究科芸術学部映像コース/実験映像、メディアアート

(1) ビデオアートの歴史

(2) 映像インスタレーション

◆乾 由紀子 (いぬいゆきこ)

大阪大学日本語日本文化教育センター (非常勤) /写真史

(1) イギリスの産業に関する写真史

(2) イギリス人が撮影した日本の写真

◆今井 隆介 (いまいりゅうすけ)

花園大学文学部創造表現学科/映画学

(1) アニメーション史

(2) アニメーション理論

◆岩城 覚久 (いわきあきひさ)

関西学院大学/美学

(1) 美学

(2) 映像学

◆馬野 訓子 (うまののりこ)

umanoco Lab (個人事務所)、四条畷学園短期大学 (非常勤) /映像

(1) ドキュメント映像

(2) 子供と映像美術 (教育)

◆遠藤 賢治 (えんどうけんじ)

大阪芸術大学芸術学部キャラクター造形学科/アニメーション

(1) 造形アニメーション制作

(2) 立体造形

◆大橋 勝 (おおはしまさる)

大阪芸術大学芸術計画学科/実験映像

(1) 常時上映のための映像表現の研究・制作

(2) 実験映画・前衛映画作品研究

◆小川 丈治 (おがわじょうじ)

NHK 旧友会会員/ドキュメンタリー制作、映像史

(1) スターの発生と消滅～銀幕の社会的考察～

(2) 「バーグマン」と「ボガード」讃歌

◆奥 正孝 (おくまさたか)

京都嵯峨芸術大学芸術学部 (非常勤講師) /テレビ番組制作、エンターテイメント論

(1) NHK のど自慢の番組の研究

◆奥野 卓司 (おくのたくじ)

関西学院大学社会学部/情報人類学

(1) 日本の映像コンテンツの東アジアにおける受容と変容に関する文化人類学的研究

(2) 映像メディアにみる人間と動物の関係の研究

◆加藤 哲弘 (かとうてつひろ)

関西学院大学文学部/美学

(1) アビ・ヴァールブルク研究

(2) 物語展開の視覚表現方式について

◆川田 都樹子 (かわたときこ)

甲南大学文学部人間科学科/芸術学

(1) 近・現代の芸術と美術批評

(2) 芸術学と臨床心理学の交差点

◆韓 燕麗 (かんえんれい)

関西学院大学経済学部/中国語映画

(1) 中国系移民の映画

(2) 日中戦争期の国防映画

◆栗林 源一郎 (くりばやしげんいちろう)

京文映 (NPO) /映像、写真

(1) 写真、映像に於ける照明の光の重要性と必要性!

会員研究テーマ

◆桑原 圭裕 (くわばら よしひろ)

関西学院大学 (非常勤講師) / 映画

- (1) アニメーション映画
- (2) アメリカ映画

◆呉 鴻 (ごこう)

京都精華大学 / 映像

- (1) プロジェクション

◆小山 泰三 (こやま たいぞう)

丹波古陶館 / 映像 (スチール)

- (1) 暗く朦朧とした抽象的映像を風景の中に求め心象の深部を表現する。

◆三幣 浩一 (さんぺい こういち)

(株) ロイヤル・オフィス Cinema KOBE / 映画館経営

- (1) 映像が人間発育途上の精神形成にどう影響するか

◆島 敦彦 (しま あつひこ)

国立国際美術館 / 現代美術

- (1) 工藤哲巳の作品と写真資料の調査・研究

◆清水 芳子 (しみず よしこ)

神戸松蔭女子学院名誉教授 / 美学

- (1) ジャック・コポーと映画

◆末永 航 (すえなが こう)

広島女学院大学 / 美術史、文化資源学

- (1) 映画と都市

◆菅 康弘 (すが やすひろ)

甲南大学文学部社会学科 / 社会学

- (1) 都市における視覚経験
- (2) 場所の表象と場所の選択

◆杉本 達應 (すぎもと たつお)

福山大学人間文化学部メディア情報文化学科 / メディアアート

- (1) デジタルワークショップのデザインと開発

◆鈴木 恒平 (すずき こうへい)

神戸大学大学院人文学研究科日本学術振興会特別研究員 / 人文学

- (1) メディア史、写真史
- (2) 測量術としての写真術の歴史的考察

◆千光士 義和 (せんこうじ よしかず)

京都嵯峨芸術大学短期大学部イラストコース / アニメーション

- (1) アニメーション全般
- (2) 立体造形の映像へのアプローチ

◆高木 真理子 (たかぎ まりこ)

大阪芸術大学放送学科 / ドラマ分析

- (1) 映像ドラマの分析

◆高木 ゆかり (たかぎ ゆかり)

神戸大学大学院国際文化科学研究科博士後期課程文化相關専攻 / アメリカ映像文化

- (1) シチュエーション・コメディ研究
- (2) "I Love Lucy" 研究

◆田中 仁 (たなか じん)

京都造形芸術大学写真コース / 写真

- (1) アンリ・カルチェ = プレッソン
- (2) 植田正治

◆塚田 幸光 (つかだ ゆきひろ)

関西学院大学法学部 / アメリカ研究

- (1) アメリカ映画の性 / 政治学研究
- (2) モダニズム / ファシズム研究

◆土坂 義樹 (つちさか よしき)

京都造形芸術大学芸術学部 / 映画研究

- (1) 増村保造論

◆土居原 作郎 (どいはら さくお)

大阪芸術大学 / 演劇

- (1) テレビドラマ論
- (2) 演劇の将来像

◆友田 義行 (ともだ よしゆき)

立命館大学衣笠総合研究機構ポスドクトラルフェロー / 日本文学、映画

- (1) 勅使河原宏研究
- (2) 安部公房と映像

◆豊原 正智 (とよはら まさと)

大阪芸術大学芸術学部芸術計画学科 / 映像学

- (1) 映像技術と表現形式

◆中野 泰 (なかの やすし)

兵庫県立鳴尾高等学校 / メディア語学・映画論

- (1) 映画を介した異文化コミュニケーション能力の育成
- (2) 英語圏の伝承文芸とアニメーションの関連

◆中村 聡史 (なかむら さとし)

帝塚山学院大学 (非常勤講師) / 映画

- (1) アメリカ映画
- (2) メロドラマ

◆南里 章二 (なんり しょうじ)

甲南高等学校 / 映像教育、アフリカ史

- (1) 世界史教育における映像の有用性
- (2) サハラ長距離交易の史的人類学的研究

会員研究テーマ

◆氏名 (しめいよみ)

所属/専門

(1) 研究テーマ 1

(2) 研究テーマ 2

◆新居 理絵 (にいりえ)

(財) 京都服飾文化研究財団学芸課/ファッション

(1) 20世紀後期のファッション

◆西岡 恒男 (にしおかつねお)

大阪大学大学院言語社会研究科博士後期課程/映画理論

(1) アラン・レネにおける空間の諸問題

◆野村 雅夫 (のむらまさお)

近畿大学/映画研究

(1) P・P・パゾリーニの映画理論

◆馬場 伸彦 (ばばのぶひこ)

甲南女子大学文学部メディア表現学科/メディア論、写真論

(1) 写真とその影響 (表象論としての写真)

(2) 写真表現の現代美術における位置、およびその可能性について

◆羽生 清 (はぶきよ)

京都造形芸術大学芸術学部/デザイン論

(1) イメージと言葉

(2) 映画の中にもみるデザイン

◆浜下 昌宏 (はましたまさひろ)

神戸女学院大学/美学

(1) 画像的思考と概念的思考の比較研究

(2) 画像・映像による人文学の可能性

◆平塚 眞美子 (ひらつかまみこ)

英文学

(1) 英文学作品を映画化した監督の映像表現について

(2) 映画化された文学作品の東洋と西洋の比較

◆福原 正行 (ふくはらまさゆき)

花園大学創造表現学科/映像デザイン

(1) 映像コンテンツ論

(2) モーション・グラフィックス

◆前川 修 (まえかわおさむ)

神戸大学大学院人文学研究科/写真論

(1) 写真メディア論

◆前田 恵 (まえだめぐみ)

大阪大学教育実践センター/ロシア映画史

(1) グレゴリー・チュフライ研究

◆増田 幸子 (ますださちこ)

立命館大学産業社会学部/メディア・コミュニケーション

(1) 映像メディアにおける他者表象

(2) 少女マンガと言説

◆増田 展大 (ますだのぶひろ)

神戸大学大学院人文学研究科美学芸術学専修/美学・芸術学

(1) 写真史・写真論

◆松尾 好洋 (まつおよしひろ)

IMAGICA ウェストフィルムプロセス部/映画フィルムの修復

(1) 劣化アセテートフィルムの乳剤トランスファー技術の開発

◆松野 敬文 (まつのたかふみ)

関西学院大学 (非常勤) / 芸術学、アニメーション

(1) バルテュス

(2) 押井守

◆松本 夏樹 (まつもとなつき)

武蔵野美術大学、大阪芸術大学 (非常勤講師) / 映画前史、図像学

(1) 映画誕生前後の映像文化史。特に映像機器、コンテンツ、文献研究。

(2) 16世紀以後の西欧造形表現の図像学的研究。特に版画史。

◆松本 泰章 (まつもとやすあき)

京都嵯峨芸術大学/美術

(1) メディアアート

(2) メディア・デザイン

◆宮前 周司 (みやまえしゅうじ)

関西テレビ放送株式会社報道部/テレビドキュメンタリー

(1) ローカル局におけるテレビドキュメンタリー制作

◆村田 光男 (むらたみつお)

大阪市立大学大学院創造都市研究科事業創造研究領域博士課程/映画産業論、コンテンツビジネス学

(1) 映画産業論

◆孟 祥宇 (もうしょうう)

京都精華大学/メディアアート

(1) デジタル映像表現における「レイヤー構造」に関する研究

◆森田 亜紀 (もりたあき)

倉敷芸術科学大学芸術学部美術工芸学科/美学

(1) 制作体験の現象学的研究

(2) 芸術体験の中動相

◆森友 令子 (もりともれいこ)

大阪国際大学現代社会学部/情報デザイン、広告デザイン

(1) 日本のアニメーション作品における「線」に関する考察

(2) ファッション写真論への試み 視線とイメージ (記号) 言語からの

会員研究テーマ

一考察

◆山田 幸平 (やまだ こうへい)

大阪藝術大学名誉教授／藝術学

- (1) 映像と藝術学
- (2) 映画作品と美術との関係

◆尹 性詰 (ゆん せんちよる)

神戸芸術工科大学大学院芸術工学研究科芸術工学専攻／漫画文化

- (1) 文化交流としての海賊版漫画
- (2) 海賊版から見た韓国漫画史

◆吉川 幸夫 (よしかわ さちお)

大阪芸術大学映像学科／アニメーション

- (1) アニメーションにおける背景画とキャラクター

◆吉川 直哉 (よしかわ なおや)

宝塚大学造形芸術学部／写真芸術

- (1) 写真芸術
- (2) 写真教育

◆吉田 馨 (よしだ かおる)

京都映画祭実行委員会事務局／日本映画

- (1) 京都という街と、撮影所の関連
- (2) 三隈研次が作る女性映画

◆吉田 はるみ (よしだ はるみ)

関西学院大学／言語文化

- (1) 映画論
- (2) キュセシロフスキー

◆吉田 眸 (よしだ ひとみ)

京都産業大学文化学部／映画論

- (1) 成瀬巳喜男の映画
- (2) カフカと映画

◆米正 万也 (よねしょう まや)

京都精華大学芸術学部／アニメーション

- (1) 実験アニメーション

中部支部

◆秋庭 史典 (あきば ふみのり)

名古屋大学大学院情報科学研究科／美学

- (1) ハーネスの美学
- (2) 可視化の美学

◆天野 一夫 (あまの かずお)

豊田市美術館／近・現代美術史

- (1) 映像も含めた現代表現史

◆池側 隆之 (いけがわ たかゆき)

名古屋大学大学院国際言語文化研究科国際多元文化専攻メディアプロフェッショナル論講座／映像デザイン、造形科学

- (1) 認知科学の基づく映像創造行為の理論化とデザインの応用
- (2) コミュニケーション・メディアとしてのアート・アニメーション研究

◆大泉 和文 (おおいずみ かずふみ)

中京大学情報理工学部／インスタレーションアート

- (1) インスタレーション作品の制作
- (2) 初期コンピュータ・アートの研究

◆大島 淳子 (おおしま きよこ)

愛知県立芸術大学、名古屋学芸大学（非常勤）／プロダクトデザイン

- (1) 図学
- (2) 地域福祉

◆小倉 史 (おぐら ふみ)

愛知淑徳大学メディアプロデュース学部／日本映画史

- (1) 戦後日本の喜劇映画研究
- (2) 兵隊喜劇映画と戦争記憶の変容

◆加藤 良将 (かとう よしまさ)

中京大学大学院情報科学研究科メディア科学専攻、名古屋芸術大学デザイン学部（非常勤）／メディア・アート、インタラクティブ

- (1) 可触性のあるインタラクティブな立体造形作品の研究と制作

◆河原崎 貴光 (かわらさき たかみつ)

徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部 総合科学部併任／メディアアート

- (1) メディアアート
- (2) 現代美術

◆北市 記子 (きたいち のりこ)

静岡産業大学情報学部情報デザイン学科／実験映像、メディアアート

- (1) 芸術とテクノロジー
- (2) 映像表現における時間性と空間性

◆徐 冬梅 (じょ とうばい)

名古屋大学大学院文学研究科博士課程人文学専攻／日本文化学

- (1) 映画女優の越境的なイメージ形成とグローバルゼーション

◆洞ヶ瀬 真人 (とうがせ まさと)

ハーバード大学イエンチン研究所／映画史、映像文化論

- (1) 日本映画の近代化と映画監督

◆野崎 悠子 (のざき ゆうこ)

YUPLLOT 造形研究室／環境デザイン、クロスオーバーメディア

- (1) 「身近な自然を読む」テーマのアプローチと展開
- (2) 環境造形制作に於けるインスタレーションの展開

会員研究テーマ

◆氏名 (しめいよみ)

所属/専門

(1) 研究テーマ1

(2) 研究テーマ2

◆畑 あゆみ (はた あゆみ)

愛知県立大学、愛知工業大学、他 (非常勤) / 映画史、映画理論

(1) 日本記録映画史

◆水野 勝仁 (みずの まさのり)

メディアアート、インターフェイス論

(1) エキソニモの作品にみる仮定の現実

(2) インターフェイスにおけるカーソルのある/なし

◆宮田 英明 (みやた ひであき)

(有) メディア・イメージ・オフィス/CG、写真

(1) CG とファインアートの接点

(2) 自然写真とファインアートの接点

◆山口 良臣 (やまぐち よしおみ)

名古屋市立大学大学院芸術工学研究科/映像表現

(1) 映像、音、空間

◆楊 紅雲 (よう こううん)

名古屋外国語大学/映画

(1) 中国の映画経営

(2) 日中映像社会論

◆吉野 まり子 (よしの まりこ)

名古屋学芸大学メディア造形学部映像メディア学科/映像ドキュメンタリー

(1) ドキュメンタリー制作

(2) 映像演出の研究

◆和田 伸一郎 (わだ しんいちろう)

中部大学人文学部コミュニケーション学科/メディア論

(1) 21 世紀の情報インフラと政治 経済体制との関係性

(2) ソーシャル・メディアとデモクラシー

◆渡部 眞 (わたなべ まこと)

名古屋学芸大学メディア造形学部映像メディア学科/映像教育

(1) 映画撮影

西部支部

◆今城 明夫 (いまじょう あきお)

ラムシーオー (有) / ビデオ、写真、コンピューター

(1) 写真撮影、ビデオ撮影

(2) IT、CG

編集後記

総務委員会

■映像学会会報第 153 号をお届けいたします。この号より電子版での発行となりました。既に『映像学 85 号』と共にご連絡させていただいた <http://jasias.jp> にて学会の情報を得ることができます。Google、Yahoo、Bing、goo 等の検索サイトで「映像学会」と入力いただければ上位に表示されるようになっていきます。ページは極力単純で見やすい構成をとっています。情報のアップもスピーディになりました。紙媒体からの移行で会員の方にはご不便おかけすることがあるかとは思いますが、どうか宜しく願っています。(橋本)

◆瓜生 隆弘 (うりゅう たかひろ)

近畿大学九州短期大学生活福祉情報科/CG デザイン

(1) ウェブページデザイン

(2) コンピュータグラフィックス

◆香取 淳子 (かとり あつこ)

長崎県立大学シーボルト校国際情報学部情報メディア学科/メディア論

(1) 映像コンテンツの社会的機能

(2) 高齢社会とテレビ

◆栗原 詩子 (くりはら うたこ)

西南学院大学/音楽学

(1) ノーマン・マクラレンのアニメーション作品

◆中村 滋延 (なかむら しげのぶ)

九州大学大学院芸術工学研究院 CCD 部門/音楽・映像アート

(1) 映画の音についての制作者の立場からの分析

(2) 映像アートのサウンドデザインについての制作者の立場からの分析

◆東 義真 (ひがし よしまさ)

東亜大学デザイン学部/アニメーション・映像

(1) グローバルな映像表現

(2) アバンギャルド

◆星野 浩司 (ほしの こうし)

九州産業大学芸術学部写真映像学科/芸術工学

(1) ミュージアム・コンテンツを基盤とする次世代展示支援システムの研究

◆松友 知香子 (まつとも ちかこ)

九州産業大学美術館/美学・芸術学

(1) コンピュータ・アートの美学的考察

(2) メディア論

◆八尋 義幸 (やひろ よしゆき)

福岡市総合図書館映像資料課/アジア映画

(1) アジア映画